

KDS NEWS

dosokai

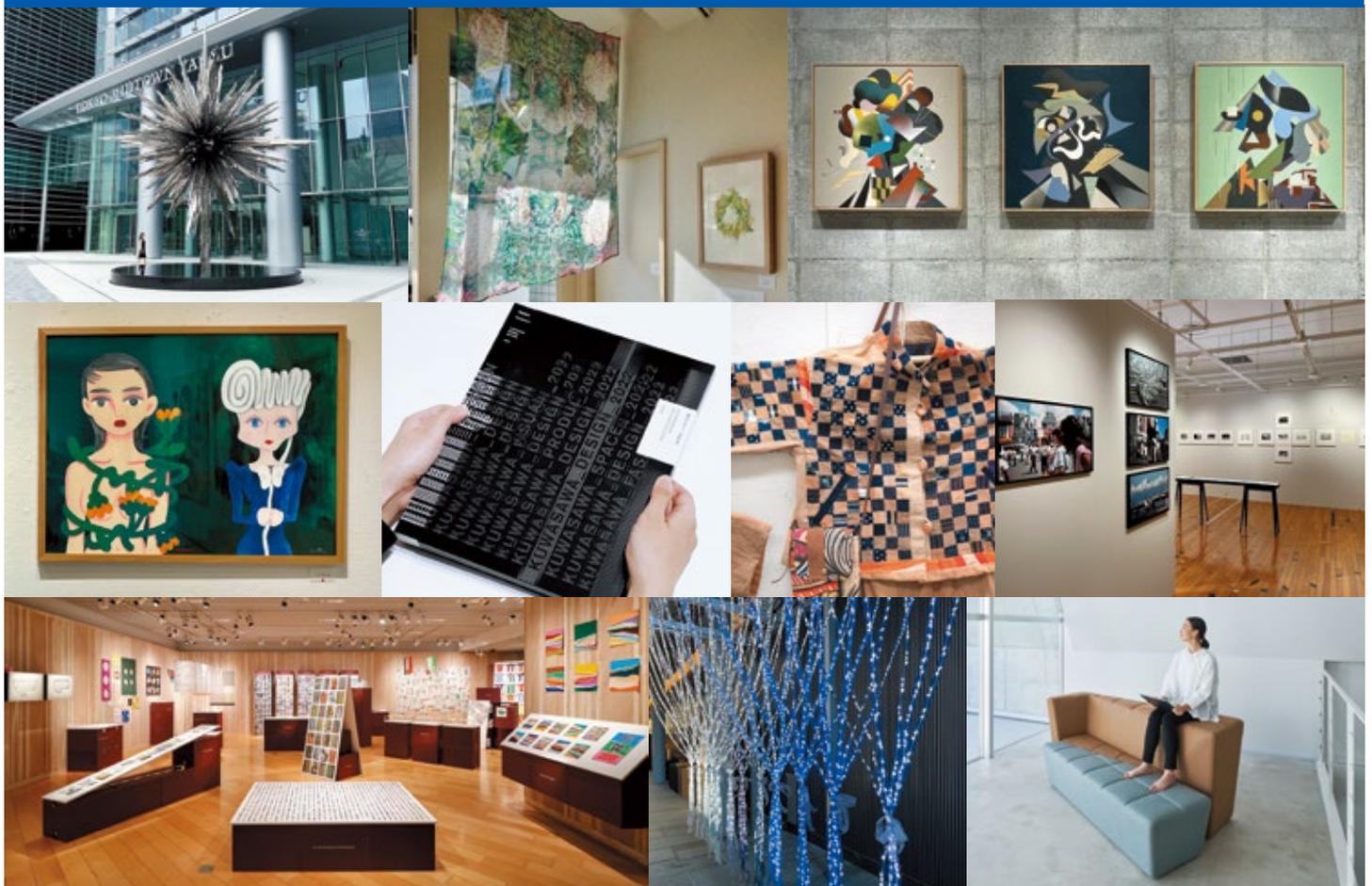
2023 no.190



第63回 定期総会開催 および 第30回 [2023] 桑沢賞 表彰式開催のお知らせ



2023年5月27日(土)
14:00~17:30
WITH HARAJUKU HALL
JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F



第63回 桑沢デザイン研究所同窓会定期総会開催および 第30回 [2023] 桑沢賞 表彰式開催のお知らせ

同窓生の皆さま

桑沢デザイン研究所同窓会が、桑澤洋子先生の業績を記念して1992年に創設した「桑沢賞」は、このたび30回を迎えます。

この記念すべき第30回桑沢賞表彰式を、来たる5月27日(土)にJR原宿駅前のWITH HARAJUKU HALLで開催し、表彰式終了後には交流会も行います。

長引くコロナ禍を経て、同窓生の交流は4年ぶりの機会になります。

表彰式の前には、第63回を迎える定期総会を行います。

ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

桑沢デザイン研究所同窓会 会長 八十島博明

日時

2023年5月27日(土)

場所

WITH HARAJUKU HALL JR原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F

参加費無料

14:00~14:30 第63回桑沢デザイン研究所
同窓会定期総会
2022年度の活動報告、会計報告、2023年度の活動方針、
予算などの議事・報告を行います。

15:00~17:30 第30回 [2023] 桑沢賞表彰式
各賞の表彰 桑沢新人賞
桑沢スピリット賞
桑沢地域賞
桑沢特別賞
桑沢賞
表彰式終了後、交流会



第30回 [2023] 桑沢賞 各賞受賞者 (敬称略)

桑沢賞(本賞)

GOO CHOKI PAR (グラフィックデザイナー)

渡辺 和音 (㈱There There 代表取締役/
アートディレクター・デザイナー)

桑沢特別賞

羽原 肅郎

高橋 敏 (アートディレクター)

桑沢地域賞

出本 正彦 (ファッションデザイナー)

桑沢スピリット賞

堀ノ内 達也 (ニッポン作家・編み物☆堀ノ内)

桑沢新人賞

宇佐美 寿々音 (浅葉克己ゼミ)

銭 偉松 (浅葉克己ゼミ)

森 咲夏 (工藤強勝ゼミ)

神尾 なつみ (森井ユカゼミ)

大澤 楓 (藤田恭一ゼミ)

三俣 悠 (藤田恭一ゼミ)

柳田 美咲 (藤田恭一ゼミ)

水野 沙耶 (夜間VD2A)

桑沢賞のロゴができました



日下部昌子

(1部 H06L研 GD/ 第3回 桑沢新人賞受賞)

アートディレクター。GRID CO., LTD.、エージーを経て、2000年佐藤卓デザイン事務所(現TSDO)入社。現在に至る。

桑沢賞の表彰式は、前年の受賞者が賞状と招待状をデザインするというユニークな形式です。毎回のオリジナリティ溢れる賞状が桑沢賞の顔でもあります。今回の第30回を機に、もうひとつのアイコンとして、桑沢賞のロゴマークを制作しました。

桑沢の卒業生は、デザイン業界に限らず様々な分野で活躍されていますが、桑沢で培ったフィルターを通して人々の生活や幸せを考えているとすれば、それもひとつのデザインと言えます。今回デザインを担当させていただいた桑沢賞のロゴマークは、メダルのような円形の左端がカットされてDESIGNのDとなり、

その中で躍動する「KUWASAWA」の文字は、各界で活躍する桑沢の卒業生を表しています。



2022 (令和4) 年度 桑沢デザイン研究所同窓会 活動報告・会計報告 (速報)

2022 (令和4) 年度活動報告

2022 年

- 5月6日(金) 同窓会ニュース 189号発行
- 5月28日(土) 第62回同窓会定期総会および
2022年桑沢新人賞表彰式の開催
(於: LIFORK 原宿 LOUNGE)
- 8月22日(月) 夏期デザイン講座 PR 用動画収録
(於: 桑沢校舎)

2023 年

- 2月24日(金)~26日(日)
卒業生作品展「桑沢 2023」に協賛
- 3月4日(土) 2023年桑沢新人賞選考会(オンライン)
- 3月11日(土) 第30回桑沢賞審査会開催
(於: 桑沢校舎 + オンライン)
- 3月18日(土) 桑沢デザイン研究所卒業式に出席

- 理事・委員会 8回
- 夏期デザイン講座実行委員会 1回
- 桑沢賞実行委員会 1回
- NEWS190 編集会議 3回
- 同窓会ウェブサイト・SNS 更新 随時
- 桑沢祭に協賛
- 卒業アルバム制作に協賛



桑沢賞審査会の様子

同窓会役員一覧 ★新任

- 会長 八十島博明
- 副会長 田辺千晶 森井久寿生
- 理事 (会長・副会長を含む)
赤羽なつみ 稲村彰保 日下部昌子
田辺千晶 野口英明 細山歩
本田理恵 宮澤太地 森井久寿生
八十島博明 藪内雄美
山越史洋 ★由良万紀子 横森美奈子
- 監事 大豆生田守 大槻高康

- 特別委員 近藤信一 中西元男
薬師神親彦 山田脩二
- 委員 新目恵 小川航司
尾形優子 (北海道支部長)
片岡治 (関西支部長)
後藤和樹 雑賀吉人 澤田昂之介
滝口未来 田代卓 高橋祐子 富野隆平
中村哲夫 野田博生 (九州支部長)
畑秀樹 平林千明 三上司

- 宮畑周平 (中・四国支部長)
森井由佳 矢島裕丈
矢内原充志 吉田仁
- 名誉会長 佐藤竜平 (研究所所長)
- 顧問 浅葉克己 (元所長)
市瀬昌昭 (元所長)
原美夫 (元同窓会副会長)
- 相談役 遠藤毅 (研究所事務局長)
- 事務局 伊草喜久江

2022年度 収支計算書

(単位: 円)

収入の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
前年度繰越金	3,079,972	4,026,723	4,026,723	0
終身会費	10,080,000	9,180,000	9,240,000	60,000
受取利息	50	40	73	33
雑収入	5,000	10,000	50	△ 9,950
収入合計	13,165,022	13,216,763	13,266,846	50,083

支出の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
広報費	2,000,000	2,000,000	1,877,988	△ 122,012
ホームページ運営費	400,000	400,000	189,750	△ 210,250
企画費	400,000	400,000	0	△ 400,000
会議費	200,000	200,000	11,238	△ 188,762
通信費	130,000	130,000	110,546	△ 19,454
事務局運営費	3,150,000	3,150,000	3,111,816	△ 38,184
事務消耗用品費	600,000	600,000	165,445	△ 434,555
総会費	1,000,000	1,000,000	701,074	△ 298,926
他団体交際費	600,000	600,000	317,414	△ 282,586
支部費	200,000	200,000	65,795	△ 134,205
リース料・支払手数料	150,000	130,000	134,530	4,530
雑費	40,000	40,000	1,278	△ 38,722
予備費	160,000	160,000	0	△ 160,000
桑沢賞寄付金	2,000,000	3,500,000	3,500,000	0
基本財産繰入	0	0	0	0
次年度繰越金	2,135,022	706,763	3,079,972	2,373,209
支出合計	13,165,022	13,216,763	13,266,846	50,083

2022年度 桑沢賞収支計算書

収入の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
前年度繰越金	7,734,257	2,974,981	2,974,981	0
桑沢賞寄付金繰入(同窓会)	3,500,000	5,000,000	5,000,000	0
桑沢賞寄付金繰入(夏期講座)	0	0	0	0
受取利息	40	20	60	40
合計	11,234,297	7,975,001	7,975,041	40

支出の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
桑沢賞開催費合計	5,500,000	2,500,000	240,784	△ 2,259,216
次年度繰越金	5,734,297	5,475,001	7,734,257	2,259,256
合計	11,234,297	7,975,001	7,975,041	40

2022年度 夏期デザイン講座収支計算書

収入の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
前年度繰越金	1,356,626	1,456,579	1,456,579	0
夏期講座収入	2,100,000	2,000,000	0	△ 2,000,000
デザイン塾収入	0	10,000	0	△ 10,000
受取利息	10	10	12	2
合計	3,456,636	3,466,589	1,456,591	△ 2,009,998

支出の部

科目	2023年度予算	2022年度予算	2022年度決算	差引残高
夏期講座支出	1,760,000	1,710,000	99,965	△ 1,610,035
桑沢賞寄付金	340,010	300,010	0	△ 300,010
次年度繰越金	1,356,626	1,456,579	1,356,626	△ 99,953
合計	3,456,636	3,466,589	1,456,591	△ 2,009,998

卒業生作品展 「桑沢 2023」が 開催されました

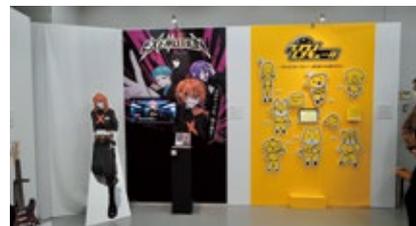
2023年2月24日（金）～26日（日）の3日間、今回も無事に卒業生作品展が校舎にて開かれました。昨年同様、ネットから事前予約をする形での開催でしたが、入場人数の枠が昨年より多く設けられ、好天のなか大盛況のうちに幕を閉じました。コロナ禍以前まであったプレゼンテーションタイム（1日に一度、学生が作品の解説をする時間）は残念ながら今回ありませんでしたが、スマホを利用しての音声ガイドを作ったり、情報豊富なポートフォリオを設置するなど、作品をアピールする工夫が随所に見られた展示となりました。ファッションデザインの躍進も目覚ましく、ショーの席は今回も争奪戦でした。

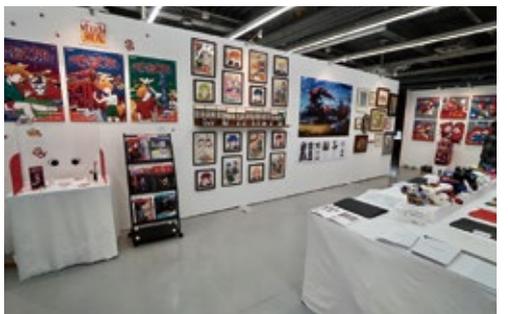
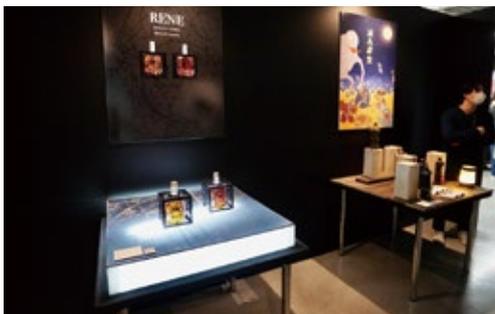
全体としてはコロナ禍がほぼ終焉を迎えたことを受け、これからの生活にじっくりと向き合うような哲学的かつポジティブな作品が目立ったことも特徴だったといえます。また物理的スケールの大きい、見応えのある作品も多く、全て見終わるまでには思ったよりも時間がかかった、とたくさんの方からご感想をいただきました。

この同窓会NEWSが発行される頃には、桑沢の公式サイトから作品を閲覧することができるようになりますので、ぜひゆっくりとご覧になってみてください。



<https://www.sotsuten-archive.kds.ac.jp/2023/>





2022年 桑沢新人賞表彰式が開催されました



2022年 桑沢新人賞の表彰式が、2022年5月28日（土）午後4時から、JR原宿駅前のWITH HARAJUKU 3F LIFORK 原宿 LOUNGEにて開催されました。

2022年は、本来であれば桑沢賞にとって第30回という節目を迎える年でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、桑沢賞本賞は2023年に繰延とし、桑沢新人賞の選定・表彰のみを執り行いました。

2022年桑沢新人賞は、2022年2月に開催された卒業生作品展「桑沢2022」での発表作品を対象に、同窓会理事・委員会にて選考され、8名が受賞しました。

表彰式では、八十島会長より各受賞者へ賞状、副賞が手渡され、表彰後は本人による作品紹介のプレゼンテーションが披露されました。



丹下佳晴さん
(浅葉克己ゼミ)



LIU TI SHENG さん
(浅葉克己ゼミ)



山元美袖さん
(伊藤透ゼミ)



袁浩さん
(白根ゆたんぼゼミ)



木村汐里さん
(森井ユカゼミ)



葉之皓さん
(KEIKO + MANABU ゼミ)



山口裕大さん
(藤田恭一ゼミ)



樋口魁さん
(夜間 VD2B)

個々の作品のコンセプトと選評はコチラでご覧いただけます。
<https://www.kds-doso.net/awards/2022.html>



2022年桑沢新人賞 記念Tシャツ 阿部真由美さん (2021年桑沢賞受賞)

最初のバラは花びらが5枚でした。大切な雌しべを守るために雄しべが花びらに形を変えました。花びらは5枚、10枚と5の倍数で増え、現在のようなバラが生まれました。自分の感性を守りながら大きな花を咲かせてください。新人賞受賞おめでとうございます。

第62回 桑沢デザイン研究所 同窓会定期総会

桑沢新人賞表彰式に先駆け、同じ会場で同日午後3時から、第62回桑沢デザイン研究所同窓会定期総会が開催され、2021年度の活動報告、会計報告、2022年度の活動方針、予算などの議事・報告が行われました。



桑沢デザイン研究所の新所長をご紹介します！

2023年4月、佐藤竜平先生が桑沢デザイン研究所の第12代所長に就任されました。



佐藤竜平先生は1969年東京都生まれ。多摩美術大学美術学科 油絵専攻 立体コースを卒業。1998年 桑沢デザイン研究所 美術分野（現：造形分野）専任教員に就任以来、「デザイン教育のデザイン」をライフワークとして教育に従事されています。

2007年より内田繁所長のもと、教務主事、所長補佐を歴任し、教育施設の改善をはじめ「《STRAMD》戦略経営デザイン専攻」の設置、「SO + ZO 展」の開催などを担当。2012年から教育計画委員会委員長として、夜間部改革の実施、夜間部附帯教育「基礎デザイン専攻」の開設などを担当。2021年には副所長に就任。渋谷新校舎改修計画などを担当。

基礎造形分野の教育にあたる傍ら、一貫して当校の教育環境の改革に取り組んでこられました。

所長就任にあたり、今後の抱負（学校の将来構想）をお聞きしました。

夜間部の改革

学校の課題であると同時に社会全体の課題でもあります。18歳人口がこれから減ること、産業界全体を見ても工業製品など日本の強みだったものの力が弱まり、学生の志望分野が平面に偏っていること、これら2つの課題に向き合い、特に夜間部を改革しなければならない、というのが直近の課題です。

今後、夜間部は、昼間部とは違う対象へ向けた、生涯教育、リスキリングといったものによって変わってゆくでしょう。

分野の再編成

分野の再編も重要です。夜間部は入学時、昼間部は2年に上がるときに分野を選択しますが、これが偏ると希望分野に行けない場合も出てきます。

今ははっきりと、ファッション、スペース、プロダクト、ビジュアルと分かれています。なるべく壁を低くして学生には選択を柔軟に捉えてほしいと考えています。

本来、それぞれの分野は繋がっていたはずで、元々桑沢はそういうタイプのカ

リキュラムでした。差別化、差異化を優先した結果、いつの間にか現在の形になりましたが、今後はもう少し分野の考え方を変わってもらえるような形にしていきたいです。

社会・学外との連携を強化

最後に、社会・学外との連携に力を入れていきたいと考えています。

現状では、学生の皆さんは課題に追われ、外部との連携まで目が向きません。新たな課程を作り、在校生が、社会や活躍している卒業生との連携ができるようにしたいです。

幸い、新校舎には、そういった外部との連携がしやすいスペースも確保できました。今後、イベントルームなどを設け、在校生と卒業生の接点、在校生・卒業生と企業を繋ぐ場、発信・交流の場を作れば嬉しいです。

なお、ご存じの方も多いと思いますが、佐藤先生は、桑沢デザイン研究所の創設に深い関わりを持つ彫刻家 佐藤忠良氏のお孫さんで、「桑沢」の創設時のメンバーのDNAを受け継いでおられます。

新しい舵取りが始まる桑沢デザイン研究所の未来が楽しみです。

新校舎 OPEN !

学校法人桑沢学園が土地・校舎を取得し、新校舎ができました！ 地上4階、地下1階の鉄筋コンクリート造りで、現校舎から徒歩1分のところです。

卒業生の空間デザイナー志摩健さん（1部H20SD3E）がデザインを担当して改修工事が行われ、2023年4月から使用が開始されました。

元々の建物の形状を上手く活かしながら、斬新でワクワクするような空間づくりがなされています。



森井ユカさんが個展「ニッポン47妖怪録」を開催



立体造形家、キャラクターデザイナーの森井ユカさん（1部60L2A）が個展「ニッポン47妖怪録」を2022年5月、代官山のGallery 子の星で開催しました。

日本人の想像力の結晶である妖怪は、江戸時代の浮世絵から現代の漫画やアニメ、ゲームに至るまで多大な影響を与え

ている「キャラクターデザインの原点」だと語る森井さん。日本全国に数千もの伝承があるとされる中から、都道府県ごとに1匹の妖怪を選び、独自の解釈で造形。会場には47都道府県にまつわる愛らしくご利益ある妖怪たちがズラリと並びました。

2022年10月からは全日空の機内誌『翼の王国』で「ニッポン47妖怪さんぽ」の連載を開始。毎月47都道府県の妖怪を1匹ずつピックアップし、5月の個展で作った妖怪を完全立体



でリメイクして発祥の地に連れて行き撮影。その土地伝承の妖怪と妖怪にちなんだ食を訪ねる旅を「妖怪トラベラー」となって紹介しています。



Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER 高田唯「混沌とした秩序」展

広告やパッケージ、ロゴなど幅広いデザインを手がけるグラフィックデザイナーの高田唯さん（2部H14VD2A）のデザインが、2023年7月11日～8月25日に東京・銀座 ギンザ・グラフィック・ギャラリーで開催された「Chaotic Order（混沌とした秩序）」で紹介されました。

1階のスペースに展開するのは、高田さんが近頃、興味を抱いているという風



のインスタレーション。ここでは天井から壁一面に色とりどりの風が吊られ、会場を鮮やかに彩っていました。いずれの風も二本足の人のような形をしたモチーフが描かれていて、フリーハンドを思わせる揺らぎを伴う線も少なくありませんでした。

一方、地下の展示室では高田さんの多様なデザインが紹介され、それぞれの作品の意味をリーフレットから読み解けるように作られていました。

このデザインが驚くほどに大胆でかつ自由な発想に基づいていて、桑沢での授業内容を彷彿とさせるものでした。例えば「Carton Base」とは、高田さんがグラフィックとして魅力を感じたという



200mlの紙パック飲料の底面を模写した作品で、幾何学的ともいえるようなイメージが描かれていました。

この他にもベビースターラーメンを線として捉えて地図を描いたり、電車の中吊り広告から背景の色面構成のみを表したり、ガムを吐き出して「口で作る彫刻」とするなど、もはや奇抜ともいえるアイデアからまったく予想もし得ない表現が生み出されていました。

禁煙マークや自販機の100円マーク、駅や公園などの地図の中のコンパスをコレクションして写すなど、社会のさまざまな事象をゼミ生たちと観察する視点も極めてユニークではないでしょうか。

「ルールのない、好き勝手に遊びまわるプレイグラウンド」と解説にありましたが、スタイルにとらわれない発想力こそ高田さんが生み出すデザインの源泉なのかもしれません。



生誕100年 朝倉 展

画家・舞台美術家として、また桑沢デザイン研究所および東京造形大の設立発起人として参画するなど活躍した朝倉氏（1922-2014）の全貌に迫る、はじめての本格的な回顧展が神奈川県立美術館葉山で2022年4月16日から6月12日の会期にて開催されました。

彫刻家・朝倉文夫（1883-1964）の長女として東京・谷中に生まれた朝倉氏は、17歳から日本画家・伊東深木に学び、モダンな人物像を洗練された色彩感覚で描き出し、若くしてその才能を認められました。戦後は、新制作協会に所属し、パブロ・ピカソやベン・シャーンなど海外作家の研究を通して、新しい絵画表現を模索します。炭鉱や漁村の労働者に取



《夫婦》1953年 神奈川県立近代美術館蔵



「ハムレット」舞台模型 1978/2021年 アトリエ・アサクラ蔵



「にぎり江」エレベーション「菊の井」店先 1984年 アトリエ・アサクラ蔵

材を重ね、60年安保闘争などの社会的問題に取り組む中で、演劇やデザインなど多様なジャンルの芸術家との共同制作



絵本『ごんぎつね』原画（新美南吉作・朝倉挿絵）個人蔵



《歎び》1943年 神奈川県立近代美術館蔵

に可能性を見出し、60年代半ば以降は舞台美術へと活動の比重を移しました。

「過去を振り返るのが大嫌い」と語っていた朝倉氏は日本画時代の作品を表に出したがいなかったそうです。この展覧会には、没後、アトリエの倉庫に残されていた作品のうち、これまでほとんど人の目に触れることのなかった絵画作品40点余りと素描に加え、舞台美術の模型やデザイン画、資料、絵本原画を含む約200点が並びました。これらの作品群は、戦中から戦後にかけて日本が大きく変わる時代を見事に映し出しています。

生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良



佐藤忠良《群馬の人》1952年 宮城県美術館蔵
photo ©佐々木香輔

2022年7月16日から9月19日まで群馬県立館林美術館にて佐藤忠良氏の展覧会が開催されました。日本人の手で初めて日本人の顔を表現したと評価されている代表作「群馬の人」をはじめとする彫刻作品に加え、数々の絵画作品や資料、合わせて全174点が展示されました。

佐藤氏は渋谷校舎の「桑澤洋子像」や



佐藤忠良『おおきなぶぶ』絵本原画 表紙・裏表紙
1962年5月刊 宮城県美術館蔵



桑沢賞ブロンズ像



桑澤洋子像
桑沢デザイン研究所蔵

洋子先生の若い頃だという説もある桑沢賞のブロンズ像を制作したことで同窓生にも馴染み深く、桑沢草創期から教育に尽力されました。子供の頃に絵本「おおきなぶぶ」に親しみ、大人になってから佐藤氏の作品だと知った方も多いのではないでしょうか。展示は3部構成で佐藤氏の歩みを振り返るものとなりました。

本展は、2023年4月22日から7月2日の会期で神奈川県立近代美術館葉山でも開催されます。

牛腸茂雄さんの写真展「はじめての、牛腸茂雄。」



牛腸茂雄さん（1部42L3写真）の写真展「はじめての、牛腸茂雄。」が2022年10月7日～11月13日、渋谷PARCO8階「ほぼ日曜日」にて開かれました。

牛腸さんは幼い頃に患った病のため、身体にハンディキャップがありながらも素晴らしい作品を撮り続け、36歳という若さでこの世を去った写真家です。

牛腸さんが写真の道を歩み始めたのは、桑沢在学中、当時桑沢で写真を教えていた大辻清司氏にその才能を見出されたのがきっかけでした。卒業後、カメラ

雑誌などに発表した作品が次第に評判を呼び、若い世代の写真家として注目されるようになっていきました。

生きるあかしとして写真を撮り続けた牛腸さんの作品の被写体は、何気ない日々の中で出会った子どもたちや家族、見慣れた街で出会ったひとコマなど。

「僕の写真は 見過ごされてしまうかもしれないギリギリのところの写真なのです。一見、何の変哲もないところで、僕はあえて賭けているのです。」〈姉への手紙〉より、とご本人がそう語る写真は、静かだけれど心の奥に響く魅力にあふれています。

会場に並んだ約100点の作品は、桑沢で牛腸さんと同級生だった写真家 三浦和人さん（1部42L3写真）が、今回の展覧会のためオリジナルのネガから1枚いちまい丁寧にプリントして仕上げたもの。写真そのものにパワーがあります。

ひたむきに生きた牛腸さんが見つめた世界を追体験するような不思議な感覚を覚えた、素敵なお展覧会でした。



高橋恭司さん写真展「Ghost」

写真家・高橋恭司さん（2部56PD2）の個展「Ghost」が代官山のLOKO GALLERYにて2022年9月16日～10月16日まで開催されました。

90年代に雑誌や広告、ファッション・カルチャーに多くの影響を与えた高橋さん。貴重なヴィンテージプリントからインスタントフィルム作品、近年取り組んでいる「花」の写真やドローイングなどが一堂に展示され、30年にわたる活動をたどりましました。個展に合わせて写真集「Ghost」も限定出版。

また、会期中に料理家や写真家、ミュージシャンとのトークイベントも開催されました。



新目恵さん個展「十月 木と、」



イラストレーター・新目恵さん（1部 H05L2B）の個展「十月 木と、」が青山の HB Galleryにて2022年10月21日～26日まで開催されました。

書籍の表紙や冊子に風景や植物を多く描いている新目さん。この個展では特に里山で出会った木々や、可憐に咲く花たちを美しく、表情豊かに描いていました。重なり合う木々の葉や下草のなかの小さな花びらまで丁寧に描かれていて、葉を揺らす風の音や草木の香りまで伝わってくるようでした。それは新目さんが野や山の散策を通して養った観察眼と何より草木を愛しむ思いに溢れているからでしょう。観る人を心地よい気分にさせてくれます。Gallery入口には草花がプリントされたスカーフが風に揺れていました。

中村桃子さん 中村幸子さん 2人展「うつくしいひと」



イラストレーターの中村桃子さん（1部 H24VD3A）とお母様の中村幸子さん親子による2人展「うつくしいひと」が、2023年3月13日～22日、東京青山のスペーススイで開催されました。

中村桃子さんは女性と花をモチーフに可愛さと毒っ気が同居する作風で、中村幸子さんは可愛らしさと奇妙さが共存するキャラクターを描いて、共に人気のイラストレーター。お二人それぞれ独特の色使いと個性が光る作品は、観る人を不思議な世界に誘います。

今回のために描いた『実験』という名のコラボレーション作品も並びました。

好きな尊敬している画家は、母・中村幸子さんだという桃子さん。

コラボ作品を描く順番はその時によるそうですが、幸子さんが先に半分描いた絵に、後から筆を入れていく時はちょっぴり緊張しますと話します。

どのコラボ作品も、お互いの独特の世



界観を引き継ぎ、1つの素敵な物語を感じる絵に仕上げられています。

仲の良い姉妹のようなお二人が描く夢のような世界に魅了されました。



出本正彦さん「柿渋染展」を開催

広島県立美術館で開催された出本正彦さん（1部44D3B/前中国支部長）の展示会にお邪魔しました。始めて30年になるという柿渋染を用いた服やバッグなど数十点を展示。私は今回初めて出本さんの作品を生で拝見しました。

ファッションデザイン分野に詳しくないので専門的コメントはできませんが、使っている素朴な素材（かつて大漁旗や鯉幟として使われた古布）からこんなにもアバンギャルドなデザインができるのかと、驚きとワクワク感に包まれました。聞けば先進的な若者にも支持されており、パルクールのアスリートも出本さんの服を愛用しているとのこと。

人に「今回の展示会は出本さんの集大成らしい」と聞いていたのでその旨申し上げますと、「そんな言い方したらもう引退するみたいやないか」と笑顔でお叱りを受けました。なお精力的にクリエイティブを發揮している大先輩を拝見して、自分もそんな歳の取り方がしたいなと思いました。

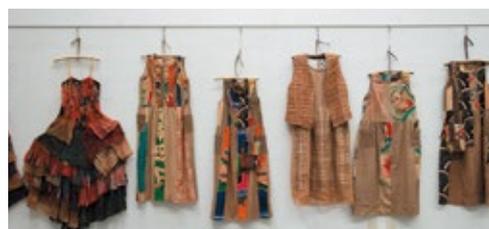
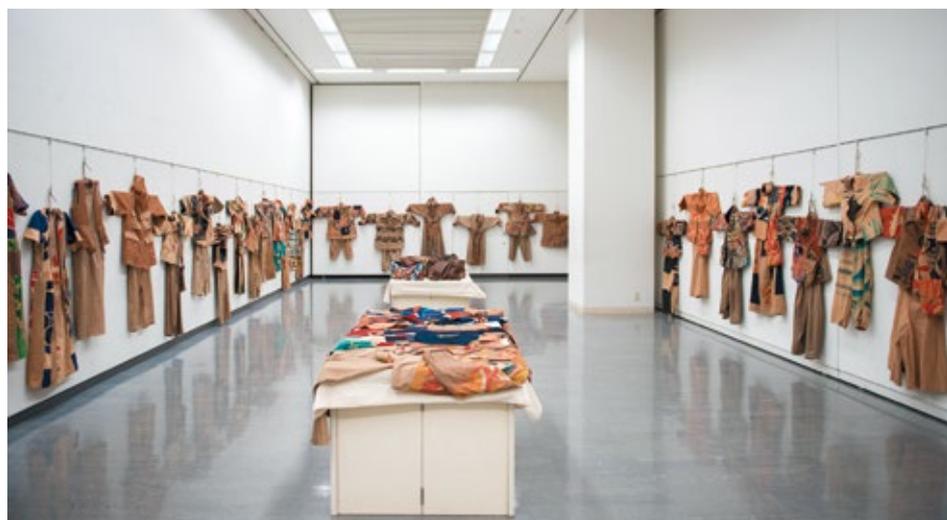
記：中・四国支部長 宮畑周平（2部H19SD2）

期間：2022年10月18日（火）～23日（日）

場所：広島県立美術館地下1階県民ギャラリー



柿渋染と鯉幟・大漁旗・藍染の古布の組み合わせによる作品



小川航司さん「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」に参加

2022年10月21日から23日まで、静岡県掛川市にて、第22回目となる「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」が開催されました。第1回から参加している小川航司さん（2部59VD2A）が100点以上ものユーモア溢れる作品を出展したほか、文化展の題字も揮毫し、街道にポスターとして掲載されました。

この文化展は、掛川市横須賀地区の味わいある街並みのお宅の軒先や部屋、土間で様々なイベントを催しています。今回は3年ぶりの通常開催となりました。

100名のアーティストが参加し、来場者は30万人を数える盛況ぶりでした。

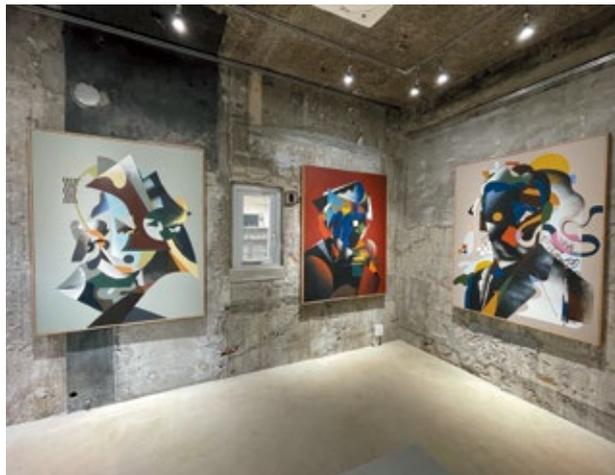


GOO CHOKI PAR 「顔」がテーマの個展「OKAO」を開催

デザインユニットGOO CHOKI PAR (ゲーチョキパー) が「顔」をテーマにしたアートワーク個展「OKAO」を、2023年2月16日～26日、三軒茶屋にあるローカルオルタナティブスペース Clinicにて開催しました。

最近ではNHK大河ドラマ「どうする家康」のタイトルロゴデザインで注目を集める彼らの制作方法は独特。最初に3人でデザインの方向性を決めたと、1人がつくったビジュアルに次の人が重ね、そこにまた次の人が重ねていく。3人で1つのビジュアルをぐるぐる回しながら、それぞれが手を入れ、最終的なデザインを完成させるという方法です。

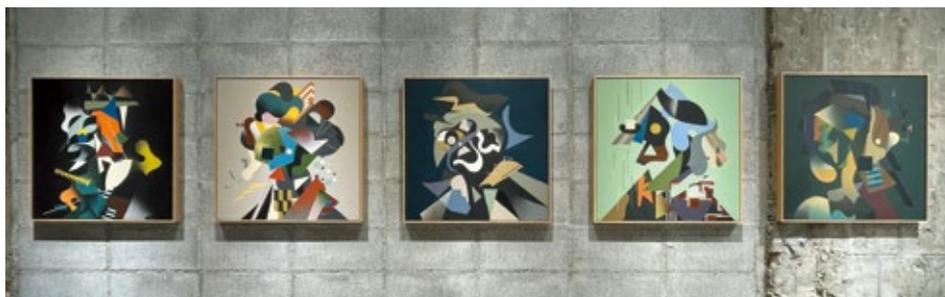
今回の「顔」をテーマにした作品も、彼らのグラフィックデザインの制作プロ



セスと同様に、3人のビジュアルイメージの受け渡しによって形成され、最終的には絵具やスプレーを用いて制作されました。3人のイメージの相乗効果によって生まれた、唯一無二の「顔」たちに出会えた、楽しい展覧会でした。



左から飯高さん、石井さん、浅葉さん



GOO CHOKI PAR (ゲーチョキパー)

浅葉球さん(1部H18L系3B)、飯高健人さん、石井伶さん(1部H18L系3C)の3人によるデザイン&アートユニット。言語や思考を超えたビジュアル コミュニケーションを軸に、様々な領域で活動している。

畑秀樹さん 体験するillumination作品を公開

畑 秀樹さん(1部H07L研イ住)が2022年12月15日～24日に東京丸の内で開催された「ライティングオブジェ 2022」

で光の演出作品「in full blooom」を公開しました。

無数の光の粒が煌めきながら動き、風

に揺らぐ波のイメージから光の花束へ、光を結ぶという行為によって景色が変わり、プログラミングされた光の中でうつろいを体感できる作品でした。

畑さんは、光や映像等のビジュアルによる空間演出分野で幅広く活動。

光・時間・コミュニケーションといった身近に存在しながらも手に取る事の出来ない要素から、その時その場所ならではの物語をデザインしています。



吉泉聡さん「日本空間デザイン賞 2022」で最高賞の「KUKAN OF THE YEAR 2022」を受賞

日本最大級の空間デザインアワード「日本空間デザイン賞 2022」のエキシビション・プロモーション空間部門で、吉泉聡さん(1部H171B)がデザインした「route



Photo by Daisuke Ohki

to root - retracing the story of down.-」が金賞と最高賞の「KUKAN OF THE YEAR 2022」を受賞しました。このインスタレーションは、ダウン・フェザーを製造するアライドフェザー & ダウン社の営みを追体験するもので、ダウンジャケット

という形あるデザインから、ゲース・ダックまで遡り、その道程におけるストーリーを『ルート』の中に点在させました。吉泉さんは、「ルートがひとつのランドスケープと捉えられないかと考え、今回の空間をつくりました。ダウンってすごく繊細なので、人が通りすぎただけで揺れるんです。コントロールできない自然のようなものが現実にある、かつ都心である六本木に一定期間出現するというのは体験として面白いのではないかな、と」とコメントしました。

澤田昂之介さん、南澤詩音さんのグループ「第6回サンゲツ壁紙デザインアワード 大賞とサンゲツ社員賞」をW受賞

株式会社サンゲツが主催するブランド理念「Joy of Design」をテーマとして、2017年から毎年開催しているデザインコンペティションの「第6回サンゲツ壁紙デザインアワード」で、澤田昂之介さん(1部H27SD3E)と南澤詩音さん(2部2021VD2B)の作品「空、或いは宇宙」が320作品の中から大賞に選ばれました。お二人はデザインコンセプトについて『光を「覆う」雲と光を「放つ」雲の二つをフィルム写真のネガポジの関係で同一の画面に表現することで空間の中に広がる空のような、あるいは宇宙のような幻想的なデザインに仕上げた。』と語っています。

審査員には、光と人の位置関係によって印象が変わることなどが評価されました。

また、サンゲツ社員が選ぶサンゲツ社員賞を大賞とともにW受賞しました。



壁紙とその使用例

山中将司さん「red dot design award 2022」にて受賞

山中将司さん(2部H29PD2)がデザインしたエアバッグを搭載した義足が、世界三大デザイン賞のひとつである「red dot design award 2022」を受賞しました。山中さんは、デザインについて「調整可能なエアバッグをつけることで足を守り、筋肉や足の形状に合わせて調整可能。歩行時の衝撃も吸収できます。接触

部は最小に抑えることで通気性にも考慮しました」と語っています。

山中さんは株式会社パーゴワークスを経て、現在はフリーランスのデザイナーとして活躍中。2023年千葉大学融合理工学府博士前期課程修了。機能美を追求したデザインで注目されています。

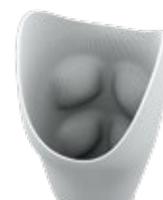
2020年 A'Design Award (イタリア) で照明器具「Frutta」が銀賞を受賞

Fumu Design Studio

<https://fumu-design.studio.site/page>



歩行時の衝撃も吸収できる調整可能なエアバッグ

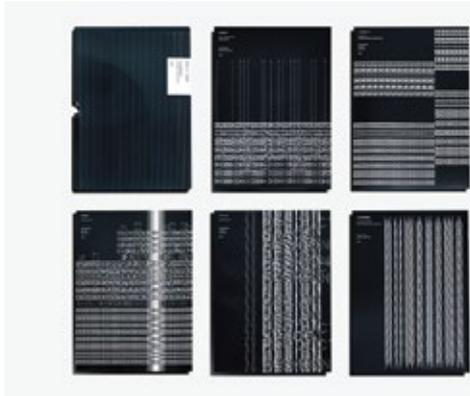


渡辺和音さんが手掛けた桑沢デザイン研究所の学校案内書が「Creative Communication Award 2022」で最高位を受賞



渡辺和音さん（1部H16L系3B）がデザインを手掛けた桑沢デザイン研究所の学校案内パンフレット「桑沢デザイン研究所 2022年度 学校案内書」が、国際的なアワード「Creative Communication Award 2022」の書籍/カタログ部門で最高位のBest of Bestを受賞しました。ケースから本体を引き出していくと、デジタルディスプレイで文字が動いてるかのよ

うな表現が楽しめます。渡辺さんは受賞にあたり「ネット上でのコミュニケーションが増え、現実とバーチャルの境があいまいになりつつあるなか、デジタルな動きをアナログ（紙や印刷物）で表現することで、デザインの可能性を追求しました。これからの学生がデザインに興味を持つきっかけになればと思います」と語っています。



『桑沢デザイン研究所 2022年度学校案内書』は以下の賞も受賞しました。

- 2022年 iF DESIGN AWARD 受賞
- 2022年 D&AD Awards ショートリスト選出
- 2022年 German Design Award 2023 Gold 受賞

土井智喜さんが「SKY DESIGN AWARDS 2022」でBRONZE 賞を受賞

土井智喜さん（2部H19SD2）がデザインしたソファ「Overlap」が「SKY DESIGN AWARDS 2022」のProduct Design部門でBRONZE賞を受賞しました。

Overlapは「2つのブロックが重なり合うことで生まれるソファ」です。

土井さんはデザインに際し「機能性を満たしつつ、オブジェのように見る角度によって印象が変わるソファを目指し

た」とのこと。背もたれと座面の軸をずらし、フラットなデザインとすることで多様な使い方が生まれ、様々なレイアウトが可能です。複数台を並べると背もたれと座面の境界が曖昧になり、それぞれの要素が混ざり合います。

土井さんはデザイン会社「soell」を主宰し、プロダクト/インテリアのデザイン、その周囲の環境デザインに取り組んでいます。また、桑沢デザイン研究所の非常勤講師としてスペースデザイン分野の授業【インテリアCADII】【インテリアCADIII】【CADプレゼンテーション】を担当しています。

- (左上) 組み合わせ方で様々なレイアウトが可能
 (左下) 2つのブロックが重なって生まれる形
 (下) 機能を限定しないことで多様な座り方が生まれる





秋田県仙北郡美郷町。秋田県南に位置する奥羽山脈のすそ野、仙北平野に広がる清らかな湧き水と豊かな自然の町です。この美郷町は母のホームタウンであり、幼少時代に着物の縫製をしていた祖母を訪ね来ていた土地です。

30数年間暮らしてきた英国から日本へと、物作りの現場を日本にと考えていたところに、この町と再び出会い移住を



雪あかりの中で見る素材の持つテクスチャーを感じたり、色を前にする時間は、この町の水のように絶え間なく湧き上がるインスピレーションをもたらしてくれます。

そんな私のワクワクを少しでもいろいろなクリエイターにつなげたいと思うようになり、また訪れてくれたアーティストたちからのリクエストもあり、この町



にクリエイターインレジデンスを、というプランを持つようになりました。たまたま3つの町が合併することで使われなくなった元庁舎を発見できたこともラッキーでした。企画に賛同する仲間たちと共に、今夏よりスタートします。

この町にまだまだ潜んでいる人々やこの町とつながることで生まれる新しいクリエイター達との輪。ここでの活動が世界中に広がることをすすめていきます。タフな環境をプラスにする、特殊な土地でしかできないクリエイションがこの研究所の特色となっていけたらと思う今日この頃です。 2023年4月 和井内京子

和井内京子 (1部 53L 研写真)

日本でバッグデザイナーとしてスタート。拠点をロンドンに移した後、様々なコラボレーションを通じ、バッグを主軸に舞台、映画のコスチュームデザインなども制作。ブータン王立タラヤナ財団クリエイティブアドバイザー。2020年に秋田県美郷町に移住し、現在は町の学び舎「やぶ前」を主宰。



撮影：船橋陽馬

フセイン・チャラヤン氏が和井内京子さんを訪ねて秋田県美郷町へ

2023年3月、世界的に活躍するロンドン在住のファッションデザイナーでありアーティスト、フセイン・チャラヤン氏が秋田県美郷町を訪れました。この異例の訪問は、チャラヤン氏がロンドンで和

井内さんの「北のくらし研究所」プロジェクトの構想を聞き、興味をもったことがきっかけで実現しました。

東北にはまだ日本の本来の姿、伝統とくらしの知恵、素材、形、手仕事による用の美があります。それらを体感するため秋田で活動する和井内さんの元を訪れたのです。

チャラヤン氏は美郷町周辺の味噌蔵や藁細工所などを興味深く視察。また貴重な機会を活かして公開インタビューを実施することになりました。



九州支部長インタビュー 野田博生さん 型にはまらない桑沢らしさ

桑沢夜間部のビジュアルデザイン専攻に入学した昭和56年の原宿は竹の子族が有名な頃でした。渋谷の街はパルコや東急ハンズ、西武デパート、丸井が輝いていました。

私は九州にあるデザイン学校を出て地元でグラフィックデザインの仕事をしていたのですが、その会社の本棚に古い「美術手帖」「アイデア」が無造作に置いてあり休憩時間にパラパラと見ていま

た。そして、桑沢デザイン研究所の記事に目が止まりました。桑沢は「小手先のデザイン教育ではなく、どの様な環境にも通用するような基礎力をつける」「概念ください」「バウハウス」といった言葉が並んでいました。それはこれまで学んだデザイン教育とは大きく違うように思えましたし、働いているときは深夜までの残業に明け暮れて疲れ果てていたので、桑沢に行って同じ志の友達を作り



野田 博生さん (2部56VD1A)

たいとも思いました。

九州から上京し生活費を稼ぐために昼間はテレビ局の喫茶でウェイターをしていましたが、2年間の経験を活かしてデザインのアルバイトに就きました。桑沢に来ている求人票を見て原宿にある小さな広告会社のデザイナーとして雇われたのですが、カメラマンの社長と私の2人だけ。そのうち桑沢の友達を誘っていいよと言われてK君に声をかけて、一緒に働くことになりました。

K君は東京の高校でデザインを学んでいて、都内の美術館やデザインや現代美術の事など色々話してくれましたし、学校の課題も情報交換しながら楽しく進めていきました。

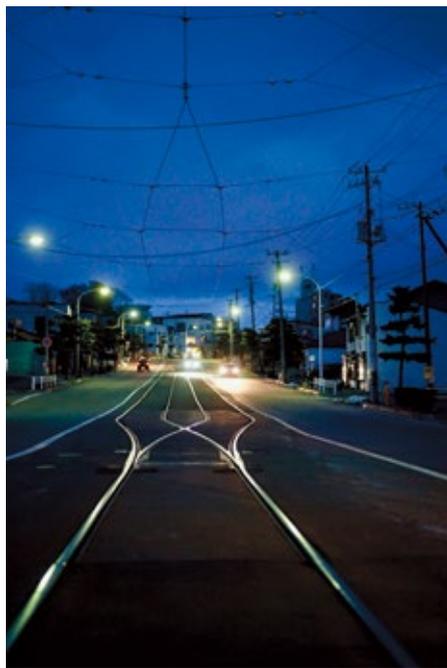
桑沢は2年課程でしたが、2年目の科目は以前に学んだ科目が多くて1年次だけ受講して進級しませんでした。そんな私が支部長をしているのも不思議で型にはまらない？ 桑沢らしいと思います。現在は中学の非常勤講師と2024年4月の銀座での個展準備に明け暮れています。



2023年1月16日～21日 野田博生第2回絵画展



2022年8月15日～23日まで
「ロンドン・パリ 二都物語」写真展



2022年8月22日～28日まで
「8都市の路面電車」野田博生写真展

わいなきょうこプロジェクト「今、何をすべきか」フセイン・チャラヤンへの公開インタビュー

2023年3月23日、秋田市文化創造館にて、和井内さんがナビゲーターとなり「PARK-いきるとつくるのにわ」プロジェクトの公開インタビューが行われました。

フセイン・チャラヤン氏は、特にコンセプトチャルでメッセージ性の高い作品が評価されています。和井内さんがその発想や形はどこから湧き上がってくるのか、アイデンティティーは何かと問うと、チャラヤン氏は表現者として客観的なものの見方、哲学が必要であり、自分を信じる（納得させる）力を持つことが大事であると語りました。近年教育にも携わっているチャラヤン氏は、学生には

新しい文化に触れること、チャレンジすることを薦めているが、教えることは自分が学ぶことでもあると。コロナ禍は戦争と同じようなものだが、逆に今までの暮らし方、働き方、コミュニケーションのとり方などを考え直す機会となったと語りました。



撮影：白田佐輔

フセイン・チャラヤン (Hussein Chalayan)

1970年キプロス生まれ、8歳でロンドンに移住。セントラル・セント・マーチンズでファッションデザインを専攻。1994年自身のブランドを立ち上げる。分野に囚われない自由な思考に基づく作風は、ファッション界では特異な存在として脚光を浴びている。



Photo by: Cem Talu

[PARK-いきるとつくるのにわ (Public. Art and Research Kitchen)]とは

秋田の文化的土壌を耕していく、秋田市主催の文化創造プロジェクト。和井内さんの活動は以下のサイトからご覧ください。
<https://akitacc.jp/event-project/wainaikyoko/>

吉岡徳仁さんの光の彫刻「STAR」が八重洲に誕生

吉岡徳仁さん（1部62L研ID）の新作パブリックアート「STAR」が「TOKYO MIDTOWN YAESU」に誕生し、八重洲の新たなシンボルとして話題を呼んでいます。この作品は、東京ミッドタウン八重洲の2023年3月のグランドオープンに先駆け、2022年9月にメインエントランスの屋外空間にパーマネントに設置されたものです。

高さ約10m、2000を超えるステンレ

スミラーのロッドで構成された作品は、まるで巨大な結晶のよう。太陽光や街のあかりをランダムに反射し環境と一体化することで、時間とともに多様に輝きが変化する「光の彫刻」です。

この光輝く一つ星には「世界が一つになるように」という平和への願いが込められています。

吉岡徳仁「STAR」(2022)



2023年度 「夏期デザイン講座」 開催のお知らせ



同窓会主催の「夏期デザイン講座」を 2023年夏より再開いたします！

幅広くデザインの基礎に触れられることで、ご好評をいただいております同窓会主催の夏期デザイン講座を、今回も充実の内容でお届けいたします。みなさまのお知り合いで桑沢受験をめざす方、デザインに興味のある方、これからデザインを学んでみたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひこちらの講座をおすすめください。

■日程 2023年8月15日（火）～19日（土）
の5日間

■内容 「色彩構成」「デッサン」「造形の基礎」
の3つの基礎科目に加え、
バラエティ豊かな
夏期特別講座も企画しております。

●詳細は5月頃に決定し、ご参加のお申し込みは
6月より受付いたします。詳しくは同窓会ウェブサ
イトまたは同窓会事務局までお問い合わせください。
TEL. 03-3462-4029 FAX. 03-3462-4090

「坂本和正のカタチ」作品アーカイブのご紹介

デザイナーとして、家具デザインに始まり教会や博物館などの公共空間に至るまで、多岐にわたるフィールドで活躍し、桑沢デザイン研究所非常勤講師、同窓会主催の桑沢デザイン塾にも携わった坂本和正さん（1部34L研A）が2018年2月に他界してから5年が経ちます。

このたび坂本さんの個性豊かなカタチとカタチに込めた想いや着想をまとめたホームページが公開されたのでここにご紹介いたします。寄稿文やインタビューから坂本さんの考え方を垣間見ることができます。

URL: <https://sakamotokazumasa.com/>



2024年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学（同窓会推薦）募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。つきましては、「自分の子供、孫をぜひ、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月中旬までに同窓会事務局にご連絡ください。推薦入学関係書類をお送りいたします。

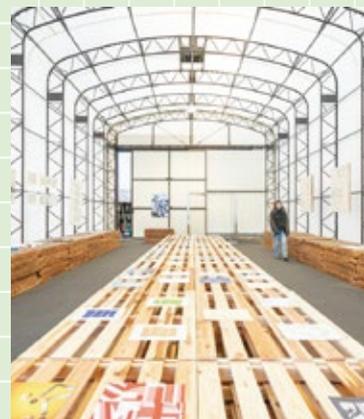
●募集人員：若干名（総合デザイン科・昼間部／専攻デザイン科・夜間部）推薦入学の試験は10月15日（日）を予定しています。

社会と直接関わるデザインを・企業と学生との協同授業

桑沢の創設者、桑澤洋子先生の理念「デザインは産業であり大衆のものである」ということを体験し、そして実現させるべく、さまざまな企業との協同授業が増えてきました。ここでは2022～23年に行われた、実社会と直接関わる課題に取り組んだ2つの授業をご紹介します。

池田紙工 × 夜間部

夜間部「アドバタイジング」非常勤、高谷廉先生の授業では、池田紙工のインナーブランディング広告の課題を取り入れ、成果として2023年の3月に池田紙工第三倉庫で展覧会が行われました。課題を実際の“仕事”として成立させ、制作した広告やデザインが機能することでよりリアリティがある社会的体験を得ることが狙いであり、高谷先生のクライアントである池田紙工にご協力いただきました。実際にその広告やデザインが池田紙工社内で採用されたことにより、社員のみなさんの意識変化（学生たちがアンケートをとり集計）や、仕事内容とそのクオリティに向上が見られるようになったそうです。また展覧会によって地域住民と社員のコミュニケーションが数多く生まれたということもあり、意義のある課題となりました。



イケア・ジャパン × 昼間部ゼミ



非常勤・森井ユカ先生のゼミ「キャラクターマーケティング」では、20代の若者をいかにイケアの都市型店舗（渋谷・原宿・新宿）へ誘導するかという課題に取り組み、イケア渋谷店の店内で企画の発表会が行われました。アニメーションや商品モックなどを駆使したユニークな提案の中から2案が採用され、一つは店頭での商品の詰め放題イベント、もう一つは3ヶ月にわたり全国のイケアレストランでカラフルな「推し色のデザート」が展開されました。これにより明らかな集客効果を実現することができ、手応えのある授業となりました。桑沢では今後もこのような、さまざまな企業を通して社会に繋がる授業が期待されています。

工藤強勝さん(桑沢デザイン研究所 第11代所長 1部48L3GD) 2023年1月23日逝去 享年74

2020年4月に桑沢デザイン研究所の所長に就任された工藤強勝さん。

コロナ禍という未曾有の状況の中で、多くの課題を抱えるデザイン教育の現場の指揮官としてご尽力されました。

ありがとうございました。2023年初頭、工藤さんが残されたメッセージは、私たち同窓生の心に響きます。

工藤強勝さんのメッセージ

機会があって正多面体5個（プラトンの立体）と斜法立法八面体、二十・十二面体、変形立方八面体の3個を追加して8個の多面体を制作した。今さら手造りをする必要もないのだが、学生時代、立体構成が好きだったので、あえて挑戦した。これが結構時間を要した。折目筋入れやボンドの乾き、立体を閉じる梁と梁を頂点でピッタリ合わせる美学だ。

多面体制作は人生を省みる機会でもあった。

僕の人生は多様な側面を持った多面体そのものだった。18歳で電子交換機のエンジニア（現在のNTT）になり、22歳、桑沢デザイン研究所でグラフィックデザインを学び、卒業後は事務所で働いたこともなく営業もせず、地味なデザインを手がけていた。ギャランティにはこだわりはなかったので、魅力的な仕事はかなり凝って制作した。それが書店に並び、デザイン年鑑に掲載され、武蔵野美術大学講師になり14

年間。その後、首都大学東京（現・東京都立大学）のシステムデザイン学部新設に伴い専任教授に…。学科の立ち上げから～学部・大学院博士課程の教育で8年後、定年を迎えた。もう充分だった。ところが2020年、桑沢デザイン研究所第11代所長就任の声がかかった。それまで母校のために何もしてこなかったので、お役に立てればと、プレゼンスアップの精神をかき立て現在に至った。これらの役職は自分から率先して声をかけたことはなく、大半僕のアクティビティを見てくれた仕事先や友人の紹介に尽きる。「運」の巡り合わせの多面的な人生だった。感謝しかない。



2023 年年賀状より

工藤強勝さんとの思い出

● 工藤強勝さんとはグラフィック研究科の同期でした。エッチングの製作授業のとき、工藤さんの提案で出来上がった作品を皆で交換しようということになり、クラス皆の作品をそれぞれが手にすることができ「なるほど」と思ったものです。卒業後も毎年交わしている年賀状にはいつも同窓会への労いの言葉があり、桑沢への愛情を感じました。その後、桑沢デザイン塾や桑沢賞審査員、研究所所長就任と、ますます桑沢との絆が深まっていきました。しかしこれからという時、この訃報に接し大変残念に思います。もう少し同窓会との活動を共に歩みたかったです。（記：同窓会監事 大槻高康）

● 私が駆け出しのデザイナーだった頃、工藤さんは既に第一線でご活躍されていました。桑沢の広報のお手伝いをしている時、初めてお会いしたのが20年前。その後、同窓会で桑沢賞の審査員をお願いしたり、私が受け持っていた桑沢のゼミのゲストとして呼びびたり、別の組織では亡くなる直前までメールでやり取りさせて頂いておりました。日本のタイポグラフィ、エディトリアルデザインの分野で長きに渡り中心的存在だった工藤さん。桑沢の所長としてだけでなく、同業の先輩として、我々は「生き字引」を失い大変な損失であると感じています。

（記：同窓会会長 八十島博明）



岩手県生まれ。1973年桑沢デザイン研究所修了。1976年デザイン実験室設立。雑誌・書籍のアート・ディレクションや展覧会のポスター・図録デザインを手がけるほか、グラフィック、タイポグラフィ、ブックデザインの評論を著す。第7回桑沢賞、第48回「講談社出版文化賞ブックデザイン賞」受賞。



（上）『デザイン解体新書』2006年 ワークスコーポレーション*自著 （中）『SO・ZO 展未来をひらく造形の過去と現在 1960s→』2010年 学校法人桑沢学園・平凡社 （下）『神田神保町書肆街考』2017年 筑摩書房 *講談社出版文化賞ブックデザイン賞受賞

三宅一生氏 2022年8月5日逝去 享年 84

「僕は賞というものになじみがなく、はじめは受けることをためらいましたが受けてよかったとしみじみ思っています。桑沢同窓生の一員になった気持ちです。ありがとうございました。」

これは2019年に桑沢特別名誉賞を授与させていただいた時の三宅一生氏の言葉です。氏は多くの桑沢卒業生を国内外の第一線で活躍するデザイナーとして育てあげ、4名もの桑沢賞受賞者が生まれました。また故倉俣史朗さんの作品を収集し散逸を防いで下さいました。

広島県生まれ。多摩美術大学を卒業後、パリのオートクチュール（高級注文服）店などで、伝統的なデザインを学んだ。1971年にブランド「イッセイミヤケ」を立ち上げ、73年にパリコレクションに初めて参加した。和服などの伝統から着想を得た「一枚の布」という考え方で注目を集めた。代表作に「プリーツプリーズ」などがある。既成概念を打ち破る斬新な服



作りが高く評価された。

1998年文化功労者、2010年文化勲章、2016年 仏レジオンドヌール勲章コマンドゥール受賞。

篠田太郎さん (2部62VD2B) 2022年8月13日逝去 享年 57

2012年 第20回桑沢賞を受賞された篠田太郎さんには、翌年の桑沢賞のスタッフTシャツをデザインしていただきました。佐藤忠良先生のブロンズが赤と青で印刷され、赤青3Dメガネを通して立体的に浮き出る、篠田さんならではのユニークなデザイン。3DメガネをかけTシャツを着た学生さんが、会場を賑やかにしてくれました。

1964年東京都生まれ。アーティスト。造園を学んだのち作家活動を開始。一貫して人間と自然の関わりを深く問う作品は彫刻、映像、インスタレーションと多岐にわたり、国際的に高い評価を受けている。映像作品に「文化における自然の解釈」をテーマとした三部作「残響」(2009～10)など。さいたま国際芸術祭(2020年)、シドニー・ビエンナーレ(2016年)など、数多くの国際展に参加。2017年から東京藝術大准教授を務めていた。



桑沢賞の
スタッフTシャツ

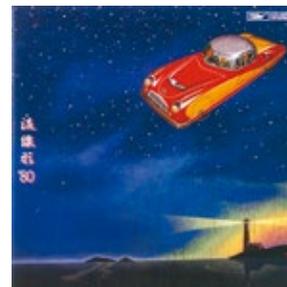


『残響』 ネイチャー・センス展
日本の自然知覚力を考える 2010年

矢吹申彦さん (1部41L2A) 2022年10月28日逝去 享年 78

温かみのある作風で数々の雑誌の表紙やレコードジャケットを飾ったイラストレーターの矢吹申彦さん。同窓生の中にはイラストの授業を受けたファンも多かったと思います。2007年第15回桑沢デザイン・オブ・ザ・イヤー賞を授与させていただきました。2023年4月7日(矢吹さんの誕生日)には追悼絵画展「NOV. たくさんの絵をありがとう」が開催されました。

1944年、東京都生まれ。グラフィックデザイナー、イラストレーター、装丁家、随筆家。69～76年「ニューミュージック・マガジン」のADと表紙絵を担当。81～90年「潮」、92～95年「東京人」各誌の表紙絵担当。松任谷由実「流線形'80」、岡林信康「私を断罪せよ」等のレコードジャケット、書籍のイラストを数多く手がけた。74年からは描きおろしの個展を開催。書著に『矢吹申彦音楽図鑑』『画報 猫づくし』『東京の100横丁』など多数。



松任谷由実
「流線形'80」



デジャ・ヴー
1972年

出版のお知らせ



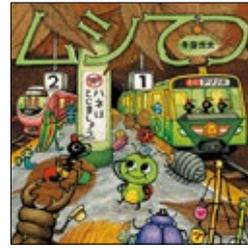
『鍛え造る
秋山実写真集』
秋山実 (1部 36L3 写真)
みすず書房
定価: 19,800円 (税込)



『パンダのどさん
ボクのおきにいり』
西村優美子 (2部 H05VD2A)
みらいパブリッシング
定価: 1,430円 (税込)



『朝倉撰の見つめた世界』
朝倉撰 (1993・
第1回桑沢特別賞受賞)
青幻社
定価: 2,750円 (税込)



『ムシてつ』
牛窪良太 (1部 60L 研い住)
白泉社
定価: 1,320円 (税込)



『HOME』
中村桃子 (1部 H24VD3A)
株式会社ブートレグ
定価: 4,000円 (税別)



『さすさがさすさ』
伊藤文人 (1部 48L3GD)
みらいパブリッシング
定価: 1,399円 (税込)



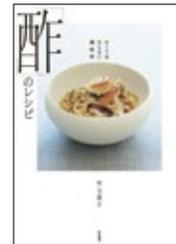
『ビジュアル&デザインで
楽しむ 京極夏彦の世界』
京極夏彦 (1部 57L2B)
玄光社
定価: 2,200円 (税別)



『ひどい民話を語る会』
京極夏彦 (1部 57L2B)
ほか
株式会社KADOKAWA
定価: 1,650円 (税込)



『書楼 待宵』
京極夏彦 (1部 57L2B)
集英社
定価: 2,310円 (税込)



『酢のレシピ』
有元葉子 (1部 37L2P)
東京書籍
定価: 1,760円 (税込)



『有元葉子の冷凍術』
有元葉子 (1部 37L2P)
筑摩書房
定価: 1,760円 (税込)



『おやつはうちで作るもの』
有元葉子 (1部 37L2P)
東京書籍
定価: 1,870円 (税込)



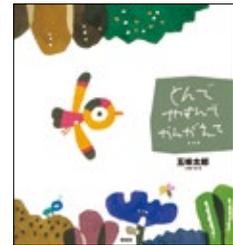
『和の食材 豆』
有元葉子 (1部 37L2P)
家の光協会
定価: 1,870円 (税込)



『めをさせ』
五味太郎 (2部 42PDID)
絵本館
定価: 1,400円 (税別)



『じぶんかみえない!』
五味太郎 (2部 42PDID)
福音館書店
定価: 440円 (税込)



『とんでやすんでかんがえて...』
五味太郎 (2部 42PDID)
偕成社
定価: 1,300円 (税別)

受賞のお知らせ (学生は在校時)

- 里館ひなの (1部 H30PD3D) オートカラーアワード 2022 グランプリ受賞 対象作品: ダイハツ・ハイゼットトラック
- 小川寛 (夜間部プロダクトデザイン専攻在校生) Next Eco Design 展 2022 学生部門 最優秀賞
- 山中将司 (2部 H29PD2) red dot design award 2022 対象作品: エアバッグを搭載した義足
- 五味太郎 (2部 42PDID) MOE 絵本屋さん大賞 2022 第9位 対象作品: ひよこは にげます
- 渡辺和音 (1部 H16L系 3B) Creative Communication Award 2022 Best of Best 対象作品: 桑沢デザイン研究所 2022 年度 学校案内書
- 吉泉聡 (1部 H17 1B) 日本空間デザイン賞 2022 KUKAN OF THE YEAR 2022 対象作品: route to root - retracing the story of down. -
- 吉泉聡 (1部 H17 1B) 日本空間デザイン賞 2022 エキシビジョン・プロモーション空間部門 金賞 対象作品: route to root - retracing the story of down. -
- 吉泉聡 (1部 H17 1B) 日本空間デザイン賞 2022 オフィス空間部門 銅賞 対象作品: TOHOKU satellite Lab (仙台市)
- 土井智喜 (2部 H19SD2) SKY DESIGN AWARDS 2022 Product Design部門 BRONZE賞 対象作品: Overlap
- 渡辺和音 (1部 H16L系 3B) German Design Award 2023 「Gold」 対象作品: 桑沢デザイン研究所 2022 年度 学校案内書
- 澤田昂之介 (1部 H27SD3E) 南澤詩音 (2部 2021VD2B) 第6回サンゲツ壁紙デザインアワード 大賞/サンゲツ社員賞 対象作品: 空、或いは宇宙
- 玉城結羽 (昼間部ビジュアルデザイン専攻2年在校生) 日本パッケージデザイン学生賞 井田紀美子賞 対象作品: 一口山
- 山元美柚 (1部 2021VD3A) 2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選 対象作品: 天然水涵
- 都築彩香 (2部 2021SD2) 2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選 対象作品: 時空層パズル
- 樋口魁 (2部 2021VD2B) Japan Six Sheet Award 2022 一般公募部門 銅賞/協賛企業賞 Uber Japan賞 対象作品: Uber Eats 配達パートナーの募集広告
- 潮田登久子 (1部 38L3 写真) Paris Photo-Aperture PhotoBook Awards 審査員特別賞 対象作品: 「マイハズバンド」
- 岡田友香梨 (2部 2019VD2A) 高谷廉 日本タイポグラフィ年鑑 2023 VI部門ベストワーク賞 対象作品: 『日日は、礎と酒。』
- 稲葉莉子 (夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2022 ターナー色彩賞 対象作品: 言わない
- 佐治良太郎 (1部 49L3ID) 日本版画協会 第89回 版画展 B部門入選 対象作品: 「私たちは数字に囲まれている」
- 佐治良太郎 (1部 49L3ID) 第65回 CWAJ 現代版画展 入選 対象作品: 「16窓の家」
- くしだみさき (夜間部ビジュアルデザイン専攻1年在校生) 『イラストレーション No.235』第223回ザ・チョイス漆原悠一 準入選
- 児玉篤司 (1部 2020VD3B) 第70回 朝日広告賞 準朝日広告賞
- 並木千香 (2部 H26SD2) HB WORK Competition Vol.3 アルビレオ賞
- 成清遼 (夜間部ビジュアルデザイン専攻在校生) 第11回 方正奖 Founder Award 学生部門 審査員特別賞 (岳所賞) 受賞
- 渡辺和音 (1部 H16L系 3B) iF DESIGN AWARD 2022 対象作品: 桑沢デザイン研究所 2022 年度 学校案内書

瀬戸内国際芸術祭	春：4月14日～5月18日	瀬戸内海各島嶼	清水久和（1部 59L2CID）ほか
HB WORK Competition vol.2 受賞者展	4月22日～28日	東京・神宮前 HB Gallery	芳賀あきな（1部 H26VD3C）ほか
グラフィックトライアル 2022 -CHANGE-	4月23日～7月24日	東京・文京区 印刷博物館 P&P ギャラリー	GOO CHOKI PAR：浅葉球（1部 H18L系3B）、飯高健人、石井伶（1部 H18L系3C）
SICF22 EXHIBITION 部門 受賞者展	4月26日～5月1日	東京・南青山 スパイラルガーデン	野村仁衣那（1部 2020SD3E）ほか
森井ユカ個展「ニッポン47 妖怪録」	4月27日～5月2日	東京・代官山 Gallery子の星	森井ユカ（1部 60L2A）
ニシイズミユカ個展「秘密の友達」	4月27日～5月10日	東京・千代田区 Marunouchi Happ. Stand & Gallery	ニシイズミユカ（1部 H25FD3F）
長坂大山游刻展	5月26日～6月1日	東京・乃木坂 サロンブティック saaya	ビショップ康史（1部 48L3ID）
潮田登久子写真展 マイハズバンド	5月26日～6月20日	東京・三鷹 book obscura	潮田登久子（1部 38L3 写真）
高田 唯「中国台湾中間報告」	5月28日～6月24日	東京・代官山 蔦屋書店2号館 1F ギャラリースペース	高田唯（2部 H14VD2A）
染・彫金・ダンボール+3人展	6月3日～11日	東京・阿佐谷南 アートスペース 煌翔（コウショウ）	檜山永次（2部 45 PK）ほか
as it is.-equilibrium flower-	6月6日～12日	イタリア・ミラノデザインウィーク 2022	TAKT PROJECT / 吉泉聡（1部 H17 1B）ほか
都美セレクション グループ展 2022 たえて日本画のなかりせば：東京都美術館篇	6月11日～7月1日	東京・上野 東京都美術館ギャラリー A	鈴木一成（1部 H06L 研写真）
たむらしげる個展「Glacier Blue」	6月13日～7月2日	東京・神宮前 ピンポイントギャラリー	たむらしげる（2部 44PK）
SUMMER SHOW	6月24日～7月30日	東京・神宮前 MAHO KUBOTA GALLERY	古武家賢太郎（1部 H09L 研 GD）ほか
Sakurako Oidaira Exhibition "Anima"	6月24日～7月23日	福岡・福岡市 PATINA	生平桜子（1部 H26VD3C）
生誕100年 朝倉 撰展	6月26日～8月14日	東京・練馬区立美術館	朝倉撰（1993・第1回 桑沢特別賞受賞）
川崎市民アンデパンダン展	6月28日～7月24日	神奈川・川崎 アートガーデンかわさき 3F	糸井充至（2部 48GD2）ほか
吉田昌平 展覧会 "KASABUTA"	7月1日～24日	東京・新宿 Roll	吉田昌平（2部 H19VD2B）
第33回 大田区絵画学習グループ展	7月1日～24日	東京・大田区 大田区民プラザ展示室	糸井充至（2部 48GD2）ほか
遠藤享展	7月11日～23日	東京・銀座 養清堂画廊	遠藤享（1部 36L3GD）
高田 唯「混沌とした秩序」	7月11日～8月25日	東京・銀座 ギンザ・グラフィック・ギャラリー	高田 唯（2部 H14VD2A）
白鳥美子・森井ユカ 旅のスケッチ展	7月20日～30日	東京・世田谷代田 ふくもの堂	森井ユカ（1部 60L2A）ほか
作品展 アイスコーヒーでひとやすみ	7月28日～8月1日	千葉・流山 蔵カフェ+ギャラリー灯環	村西恵津（1部 55L2B）
魔女と魔女っ子べったん展	8月5日～21日	東京・三軒茶屋 占いかフェ and バー アルカナ	林ゆみこ（2部 H05VD2B）
中村桃子 作品集『HOME』刊行記念展	8月5日～18日	東京・新宿 BOOTLEG gallery	中村桃子（1部 H24VD3A）
桑沢デザイン研究所 昼間部・夜間部合同展「Qs」	8月6日・7日	東京・東五反田 東京デザインセンター ガレリアホール	自治会・学生会主催 昼間部 / 夜間部有志
2022年度 桑沢デザイン研究所 羽金知美ゼミ 写真展「泳ぐ鳥」	8月6日～24日	東京・下落合 Alt_Medium	羽金知美ゼミによるグループ展
米津 祐介&オカタオカ【Have a good chill life !】	8月11日～31日	東京・銀座 伊東屋	オカタオカ（2部 H22VD2B）+米津祐介
桑沢 羽金知美ゼミグループ展「泳ぐ鳥」	8月19日～24日	東京・下落合 Alt_Medium	羽金知美ゼミ学生
野田博生写真展「8都市の路面電車」	8月22日～28日	福岡・福岡市中央区 ギャラリー風	野田博生（2部 56VD1A）
Nina Nomura × Yuki Nakajo「ADD」	8月27日～9月19日	東京・目黒 KATSUYA SUSUKI GALLERY	野村仁衣那（1部 2020SD3E）ほか
大谷良輔 写真展 一まちのおとー	9月1日～10月4日	大分・大分市 イシカワ珈琲	大谷良輔（2部 H17VD2B）
生誕100年 朝倉 撰展	9月3日～10月16日	福島・福島県立美術館	朝倉撰（1993・第1回 桑沢特別賞受賞）
趣味の部屋	9月16日～25日	東京・渋谷 JINNAN HOUSE	下田昌克（1部 63L 研 GD）
高橋恭司「Ghost」	9月16日～10月16日	東京・渋谷 LOKO GALLERY	高橋恭司（2部 56PD2）
オープニング企画「ukabustore is opening!」	9月23日～30日	東京・目黒 ukabustore	宮坂彩（1部 H20VD3A）
Mari Endo 展 "ある日のこと"	10月1日～10日	北海道・十勝 Art Labo 北舟	遠藤真理（2部 56VD2）
はじめての、牛腸茂雄。	10月7日～11月13日	東京・渋谷 PARCO 8F ほほ日曜日	牛腸茂雄（1部 42L 3写真）
日本版画協会 第89回 版画展	10月8日～10月22日	東京・上野 東京都美術館	佐治良太郎（1部 49L3ID）ほか
何か足りない惑星	10月8日・9日	東京・渋谷 QF gallery 渋谷	昼間部ビジュアルデザイン専攻3年生 有志
「わいなきょうことその仲間たち」	10月8日～16日	東京・世田谷区桜 パセリセージ	和井内京子（1部 53L 研写真）
ミウラ アイ初個展「ワット・イズ・ラブ」	10月10日～16日	東京・道玄坂 Gallery Conceal Shibuya	ミウラアイ（1部 H29VD3C）
「インテリアデザイナー 内田繁の厨子」展	10月15日～30日	東京・銀座 ギャラリー厨子屋	内田繁（1部 40L 2C）
出本正彦柿渋染展	10月18日～23日	広島・広島市 広島県立美術館	出本正彦（1部 44D3B）
第65回 CWAJ 現代版画展	10月19日～10月23日	東京・渋谷 ヒルサイドフォーラム	佐治良太郎（1部 49L3ID）ほか
新目恵個展「十月 木と、」	10月21日～26日	東京・神宮前 HB Gallery	新目恵（1部 H05L2B）
DESIGNART TOKYO 2022「再生工芸展」	10月21日～30日	東京・渋谷 TOKYU PLAZA SIBUYA 3F ポップアップスペース「111」	大杉和美（2部 H18PD2）ほか
DESIGNART TOKYO 2022 "Life Through Holes" - 「内に光、廻る」	10月21日～30日	東京・千代田区 日比谷 OKUROJI	野村仁衣那（1部 2020SD3E）
Best Artists Exhibition 17th	10月26日～31日	東京・銀座 ミレージャギャラリー	原由美子（1部 43L3PK）ほか
二人展「A Walk In The Park」	10月27日～11月6日	東京・渋谷 RAYARD MIYASHITA PARK South 3F SAI	中村桃子（1部 H24VD3A）ほか
Sakurako Oidaira Exhibition "bar line"	10月29日～11月13日	香川・高松 border	生平桜子（1部 H26VD3C）
ATAMI ART GRANT 2022	11月3日～27日	静岡・熱海各所	中島崇（1部 05L 研写真）ほか
町田 隆要 回顧展 ～Ryuyo Machida Exhibition～	11月3日～2023年4月30日	東京・新宿百人町 スタジオ 103	加藤勝利（1部 39L3PK） 加藤静子（旧姓：町田/1部 38D3 テ）ほか
okamoto barba nami 小個展（一考の余地）	11月5日～27日	東京・練馬 AROUND ARCHITECTURE COFFEE	okamoto barba nami（1部 H26SD3E）
出口えり個展「僕たちだけが知っている」	11月9日～20日	東京・吉祥寺 古本屋 一日	出口えり（2部 H28VD2A）

えほん博 2022	11月12日・13日	東京・渋谷 代官山 蔦屋書店	五味太郎 (2部 42PDID) ほか
SHIBUYA ART AWARDS 2022 入選作品展	11月12日・13日	東京・渋谷 代官山 ヒルサイドテラス アネックスA棟	野村仁衣那 (1部 2020SD3E) ほか
一異境への旅ー 第15回 吉永邦治 油彩展	11月16日～22日	鹿児島・鹿児島市 山形屋画廊	吉永邦治 (2部 40PD イ住)
NEW NORMAL, NEW STANDARD 3 心地よい備えのデザイン展	11月16日～23日	東京・神宮前 TIERS GALLERY (荒川技研工業本社ビル 3F)	浦田孝典 (1部 H07L2C イ住)、 土井智喜 (2部 H19SD2) ほか
池澤来実 写真展 Kumi Ikezawa Photo Exhibition ー記録ー	11月18日～20日	東京・渋谷 ギャラリー Oak Cube	池澤来実 (1部 2021PD3D)
かわいぢひろ個展「mani mani」	11月29日～12月11日	東京・神宮前 ギャラリールモンド	かわいぢひろ (1部 H25PD3D)
個展「ドロップス」	12月2日～7日	東京・新宿 新宿眼科画廊スペース M、S、E	青木萌 (1部 H26VD3B)
“Figgy Pudding”	12月3日～25日	愛知・名古屋市 JILL D'ART GALLERY	野村仁衣那 (1部 2020SD3E) ほか
NEW NORMAL, NEW STANDARD 3 ー心地よい備えのデザイン展ー	12月3日～11日	大阪・松屋町 Page Gallery	浦田孝典 (1部 H07L2C イ住)、 土井智喜 (2部 H19SD2) ほか
吾輩は夏目坂通りの福ねこ展	12月7日～28日	東京・新宿 ギャラリーころころ	小林由里 (1部 59 L 研 GD) ほか
第28回小さい小さい絵展	12月15日～21日	東京・池袋 東武百貨店 アートギャラリー	小林由里 (1部 59 L 研 GD) ほか
内田繁「色の世界」	12月16日～2023年1月8日	東京・恵比寿 SOMEWHERE TOKYO	内田繁 (1部 40L 2C)
林ゆみこ「illustration Doki」	12月21日～26日	千葉・柏市 柏ハックルベリーブックス	林ゆみこ (2部 H05VD2B)
	2023年		
今井雅洋個展 [Biblioph2- ホンヲカクスヒト -]	1月5日～15日	東京・小伝馬町 JINEN GALLERY	今井雅洋 (1部 49L3GD)
長坂大山 游刻展 5	1月14日～19日	東京・新宿 柿傳ギャラリー	ビショップ康史 (1部 48L3ID)
雑誌「写真」vol.3 スペル 刊行記念展	1月24日～2月19日	東京・下目黒 Papyrus ギャラリー	オノテラユキ (1部 58D 研 A)、 草野庸子 (1部 H26VD3C) ほか
月を眺めるのに背が高い必要はない	1月25日～2月4日	東京・北青山 山陽珈琲	紺野達也 (1部 H24VD3B)
潮田登久子写真展 永遠のレッスン	1月28日～2月26日	神奈川・横浜 横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1	潮田登久子 (1部 38L3 写真)
「fluffy life」(ふるっふーらいふ)	2月1日～26日	東京・恵比寿 TEA GATE COFFEE 1&2 階	森由羅 (2部 2019VD2B)
ウクライナ人道支援募金展「渡部和夫展」	2月2日～11日	東京・国立 アートショップ& ギャラリーマール	渡部和夫 (1部 40L3 写真)
林青那「CARTA」	2月3日～19日	東京・中目黒 dessin デッサン	林青那 (1部 H21VD3B)
林青那「CARTA」	2月3日～3月4日	東京・恵比寿 東塔堂 Totodo	林青那 (1部 H21VD3B)
日常生活の冒険	2月6日～17日	神奈川・横浜市西区 f.e.i art gallery	佐治良太郎 (1部 49L3ID) ほか
草野庸子 写真展「Portrait」	2月8日～3月5日	東京・吉祥寺 Prism Lab.KICHIJOJI	草野庸子 (1部 H26VD3C)
Immortal Garden / 不朽の庭	2月9日～26日	東京・蔵前 iwao gallery	野村仁衣那 (1部 2020SD3E)
小さい小さい絵展	2月9日～14日	千葉・船橋 東武百貨店 美術画廊	小林由里 (1部 59L 研 GD) ほか
CAR WINDOW	2月11日～26日	東京・六本木 TEMPORARY ORBIT	板谷諭磨 (2部 2019VD2B)
出本正彦柿洪展	2月14日～19日	東京・神宮前 ギャラリー pamina	出本正彦 (1部 44D3B)
オンナ & おとこ・について展	2月15日～2月2日	東京・新宿 ギャラリーころころ	小林由里 (1部 L 研 GD) ほか
GOO CHOKI PAR solo exhibition “OKAO”	2月16日～26日	東京・三軒茶屋 ローカルオルタナティブスペース Clinic	浅葉球 (1部 H18L 系 3B)、 飯高健人、石井伶 (1部 H18L 系 3C)、 はるやまひろし (2部 H18VD2B)、 ナガトアタル (1部 63 研 ID) ほか
企画室セレクション「Life with Art」展 Part2	2月17日～3月12日	東京・渋谷 アートルーム企画室 (合同会社企画室)	桑沢在校生 1年 B 組有志
1B 有志合同展示会「なかみ」	2月17日～19日	東京・原宿 レンタルスペースさくら	五十嵐智行 (1部 H26VD3C) ほか
STOCK MEMBERS GALLERY 2023 #03	2月27日～3月10日	東京・渋谷 青山見本帖	TAKT PROJECT / 吉泉聡 (1部 H171B) ほか
跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめる アート、デザイン、テクノロジー	3月6日～6月4日	京都市 京セラ美術館 新館 東山キューブ	林ゆみこ (2部 H05VD2B)
Love you 展	4月1日、2日、8日、9日	東京・文京区 味噌煮込巽 (みそにこみん)	大辻清司 (1996・第4回桑沢特別賞受賞)、 牛腸茂雄 (1部 42L 3 写真)
「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容 瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄	4月8日～30日、 5月2日～21日	千葉・千葉市 千葉市美術館	村西恵津 (1部 55L2B) ほか
村西恵津の個展 & 「やさしい水彩画教室」の 仲間たちの作品展	4月14日～23日	東京・大森 Gallery MIRAI blanc	

同窓会事務局より

- 今回も同窓会ニュースの原稿を多くのみなさんよりいただきましてありがとうございます。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。またデザイン関連以外のこと（例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など）や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号（191号）は2024年4月下旬に発行の予定です。（原稿締切2024年2月末）
- 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。旧住居表示のままの方は郵便物が届かなくなりますので住所変更をお願いいたします。また、同窓会ニュースはクロネコDM便にて発送しております。建物名を省略しておりますと届かない場合もございますので建物名もお知らせください。
- みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がおられましたら同窓会

までご連絡頂けますようお願いください。また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報戴ければ、配送停止の手続きをいたします。

同窓会の活動をご支援ください。

同窓会活動の継続と発展を目的として寄付金募集の案内をさせていただきます。ご協力をいただける方は記載のQRコードの手順に沿ってお手続きをお願いします。今後引き続き同窓会活動のご理解とご協力をお願いいたします。

問い合わせ先 桑沢デザイン研究所同窓会事務局



KDS NEWS

dosokai

2023 no.190

2023年4月28日発行

桑沢デザイン研究所同窓会

150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17
TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090

✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/

📘 www.facebook.com/kdsdoso 📧 kuwasawadoso

発行
編集
デザイン
撮影
校閲
印刷

桑沢デザイン研究所同窓会
大槻高康 (1部 48L3GD)
田辺千晶 (1部 56L2C イ住)
赤羽なつみ (1部 49L3PK)
宮澤太地 (2部 H17VD2B)
GRID + 矢島裕文 (1部 H18L3B)
吉田仁 (1部 45L 研写真)
雑賀吉人 (2部 H19VD2A)
後藤和樹 (1部 H30PD3D)
本田理恵 (1部 H20VD3C)
株式会社 アトミ